

『ジャンジャン』

となる鑢鉞
（ようばち）

『ホッホッホー』

の奇声

施餓鬼会^{せがきえ}の法要が終ると、激しく戸板^とが打ち鳴らされ、鬼の叫び声^{こゑ}が櫓^{やぐら}の後ろから響きわたり、髪をふり乱した鬼どもが、無心に遊ぶ子供たちに襲いかかり、恐ろしい声を張りあげる。そこに、地藏菩薩^{じざいぼさつ}が現われて鬼を追い払い、救いを求める子供をそっと抱きあげ、静かに立ち去ります。

賽の河原

観客のマナー考えてほしい

カメラの脚立を立てると後ろの方が見えなくなるので考えてほしい。また、終了後は、ゴミの散乱が目立つので持ち帰りを心掛けてほしいですね。

エピソード

酒の席での上演には参りました。

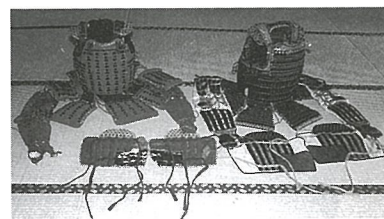
むかひばなむ

怖い肉付面



虫生の字鬼堂というところ、ここに今は火事で焼けてしまったがかつて杉の太木があった。この杉の木にまつわる恐ろしい鬼の面のお話である。

広済寺の鬼の話が名彫刻師運慶の耳に入った。運慶はかねてから鬼面を作りたいと考えていたので、早速村を訪れ僧に鬼の実観（実際に見た顔の形）を教えてもらい、見るからに恐ろしい青鬼、赤鬼、黒鬼、鬼婆の4つの鬼面を作った。



傷みが心配される赤鬼・黒鬼の鎧

た。

さて、ある時のことである。村に意地悪な子守がいて、子供が泣くとおどかしてばかりいた。そして遂に子守は広済寺の青鬼の面を持ち出して、泣く子供をおどかしたが、どうしたことか面が顔にくっついてしまった。自分の耳を切って取ろうとしたが、それでもダメで、鬼の面をつけたまま苦しんで死んでしまった。村人は鬼のタタリだと恐れて子守を埋め、そこに杉の木を植えたのが鬼堂の大杉になったのだという。大杉をけずると血が出るといふ伝え、耳切り坂という名も残っている。

広済寺の鬼面はこのため青鬼がなく、今は3つの面が寺の宝として保存されている。

以前観音様の面を地藏様と兼ねていたが面景会によって観音様、地藏様が作られ現在ではそれぞれの面をつけ演じられています。



観音様



赤鬼



黒鬼



地藏様

